

全日本予選2010レポート

No	メンバー	学年
1	大嘉田	5
2	中西	6
3	矢野	5
4	南	6
5	高松	6
6	大久保	6
7	八幡	6
8	畠迫	5
9	上田	6
10	小松	6
11	山口	5
12	位坂	6
13	三田	4
14	奥野	6
15	野間	4
16	野老	5
17	丸尾	5
18	増田	5

	秦野	ジョイカス	西長尾	末広	南山本
秦野		1-1	0-7	1-3	0-0
ジョイカス	1-1		0-5	4-2	0-0
西長尾	7-0	5-0		0-0	6-0
末広	3-1	2-4	0-0		0-1
南山本	0-0	0-0	0-6	1-0	

5/15 VS ジョイカス	
八幡	山口
小松	
野間	大久保
畠迫	
上田	南 矢野 中西
	大嘉田

5/16 VS 西長尾	
大久保	
山口	
野老	高松
小松	八幡
上田	畠迫 矢野 南
	大嘉田

5/23 VS 末広	
上田	
山口	
野老	大久保
小松	八幡
南	畠迫 矢野 中西
	大嘉田

5/29 VS 秦野	
上田	
山口	
野間	大久保
小松	八幡
南	畠迫 矢野 中西
	大嘉田

【総括】

今年は、例年のトップチームとの比較、また他チームと比較して、身体・技術・メンタルで劣る部分が多く見られるチーム編成となりました。このチームを、卒業までに、魅力あるチームに変貌させることが、指導者の仕事であると考え、4月から活動をスタートさせました。その欠点として、遠征では、短期間で「MINAYAMA」を叩き込むべく、すべてを変えるべく、臨みました。いろいろな良い発見もある中で、なかなか変えることができない心の貧しさ、幼さが露呈する部分もあり、選手達は、遠征費用を家のお手伝いで返金することになりました。そんなプロセスを踏む中で、予選を迎えることになります。このチームのテーマは、「今自分達にできる最大限のプレーを表現することであり、自分達の弱さに目を向けて、身の丈に合った、攻撃・守備を展開することです。」格好いいサッカーなんてできません。全員が地道に走って、ボールを奪い、攻撃に繋げる、一人の突破に頼らず、全員が攻守に関わることです。とても難しいテーマですが、今年1年向かうべき道としました。これには、常日頃から、論理的な思考、そして周囲に目を向け、関わろうとするチームワーク、それは結局、その選手の人間性を高めることにあります。予選では、4試合の中でフォーメーションやメンバーが大きく入れ替わる闘いとなりました。雨の中、一度ではありましたか、選手・指導者が自分達の可能性に素直にかけて、勝利することができました。ところが、これが狂わしてしまった部分があります。それを修正するために、その日のミーティングで、何も終わっていないことを伝えましたが、「盛り上がる」ではなく、「舞い上がる」となってしまいました。案の定、最終日には、出場資格を満たすことのできない選手が多数。後一歩というところで予選突破の切符を逃してしまいました。その後のオフ・ザ・ピッチのレベルも低い。やはり、このままの人間性ではチームは勝てないということが結論です。自分のことしか考えていません。チームのこと、仲間のことを、相手のことを考えていない選手・チームが、今もてる力で闘えるわけがありません。仲間と考えをそろえることが攻撃であり、仲間を助けることから守備が始まる「MINAYAMAの人間性を武器にするサッカー」はできません。しかし、一方で彼らは、これまで、幾度も試合に負け続けながらも、何とかサッカーを続けてきました。それ故に素直なサッカーへの気持ちをもっている一面もあります。これからプロセスで、すばらしいチームへと変貌できることを選手も指導者も信じて頑張っていきます。保護者の皆様、小さい進歩ではありますが、卒業までには、「変わった」と言ってもらえるチームにしていきます。今後も暖かい応援を宜しくお願いします。